

参加無料

\ 東日本大震災復興支援、地域のチカラを知るシンポジウム /

## コミュニティ組織の支援と課題

～ 3.11の被災地の現状からこれからの未来を考える～

東日本大震災の被災地における自治会などの地域コミュニティの現状や、必要な支援について話し合うシンポジウムを開催します。当日は岩手県、宮城県、福島県の状況を踏まえ、被災地のコミュニティを運営する住民や、支援団体、自治体から登壇者を招き、情報提供や意見交換を行います。また、各県共通の支援のあり方や今後の課題についても議論します。シンポジウム終了後には登壇者と参加者の意見交換を目的とした交流会も実施します。皆様のご参加をお待ちしております。

定員

会場70名程度  
オンライン150名

ハイブリッド  
開催

2024/12/10 火 13:00 ~ 17:15

交流会 17:30 ~ 18:30

※交流会は任意参加です。

交流会参加定員（会場30名、オンライン20名 各先着申込み）

## &lt;参加対象&gt;

- 被災地のコミュニティ組織を運営する住民や支援する団体の方
- 今後も東北で活動する方、今後大規模災害の発生が想定される地域の方
- 支援団体、中間支援団体、企業、自治体、社会福祉協議会の職員、地域おこし協力隊、復興支援員、地域コミュニティの担い手 など

会場

仙台市中小企業活性化センター/多目的ホール

オンライン

Zoom

宮城県仙台市青葉区中央1丁目3-1 5F（アエル5F）

※会場駐車場(有料)は台数に限りがございます。公共交通機関のご利用を推奨します。

## &lt;プログラム&gt;

- 開会
- 分科会
  - ・分科会1テーマ：「コミュニティ形成支援は必要か？」
  - ・分科会2テーマ：「被災コミュニティにおける学生ボランティアの支援」
  - ・分科会3テーマ：「広域避難における被災者支援の変化」
- 全体会「被災地の地域づくりのこれから」
- 閉会
- 交流会「シンポジウムで得た気づきを共有しよう」

申込み締切り  
12月6日（金）  
18：00 まで

\お申込みはコチラから/

▶▶▶ <https://forms.gle/Mvp2wdnn5AvT2qQx7>

- ▶申込先 QRコードまたはURLよりお申込みください。FAXでお申込みの方は別紙よりお申込みください。
- ▶お問合せ 一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター（担当：太田・加藤）
- ▶電話番号 022-797-6708 ▶メールアドレス /[info@michinoku-design.org](mailto:info@michinoku-design.org)

主催

特定非営利活動法人いわて連携復興センター / 一般社団法人みやぎ連携復興センター  
一般社団法人ふくしま連携復興センター / 一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター

後援

岩手県、宮城県、福島県

※本事業は令和6年度復興庁被災者支援コーディネート事業により実施しております。

# 「コミュニティ形成支援は必要か？」

## 分科会1

13:15~14:10 (担当: 特定非営利活動法人いわて連携復興センター)

東日本大震災津波の被災地では、災害公営住宅や高台移転、自宅再建などでコミュニティの再構築を余儀なくされました。少子高齢化や核家族化の進行、人口減少、地域のつながりの希薄化が進む中で、誰もが安心・安全に暮らせる地域コミュニティを形成していくために、支援が必要なのかどうか、ディスカッションを通して深掘っていきます。

### ■登壇者



#### 船戸 義和氏

・特定非営利活動法人いわて連携復興センター コミュニティアドバイザー  
・国立大学法人岩手大学 客員准教授

震災直後からNPO団体・岩手大学などで被災各地のコミュニティ形成支援を継続。現在は災害公営住宅を中心に、自治会設立・運営を通して、人の復興や安心・安全な暮らしを住民主体でつくる取り組みに注力。話し合い文化の定着と住民総参加の仕掛けなどによる「地域力のボトムアップ」を自治会役員らと実践中。



#### 阿部 寛之氏

社会福祉法人山田町社会福祉協議会 地域福祉課長

2000年4月に入社し介護保険事業、地域福祉事業等に従事。2011年3月の東日本大震災以降は災害ボランティアセンター担当を経て、生活支援相談員統括等の被災者生活支援事業に従事し現在に至る。

### ■進行

酒井 菜穂子 / 特定非営利活動法人いわて連携復興センター 地域コーディネーター

# 「被災コミュニティにおける学生ボランティアの支援」

## 分科会2

14:20~15:15 (担当: 一般社団法人みやぎ連携復興センター)

学生ボランティアが被災コミュニティの自治会の支援にかかわるなかで、学生・被災者双方にどのような変化が生まれたかをふりかえり、今後のコミュニティ支援のあり方に向けたヒントを得ます。

### ■登壇者



#### 橋本 大樹氏

一般社団法人東北まちラボ 代表理事

まちづくり、地域づくりアドバイザーとして、兵庫県の集落支援やコミュニティづくりの支援を行ってきた。東日本大震災の復興まちづくり支援のため宮城県に移住し、山元町の新市街地の自治会設立から運営支援や浜通り被災行政区のコミュニティ支援や角田市のまちづくり計画書策定支援等を行っている。



#### 星光一氏

桜塚自治会 会長

東日本大震災で被災し、山元町に整備された3つの新市街地の一つである桜塚地区に移転、移転地のコミュニティづくりを協議する世話人会に世話役として参画し、平成28年度桜塚自治会設立。その後、令和3年度から自治会会長に就任。行政の連絡調整や自治会活動を行っている。

#### 千葉 壮馬氏

尚絅学院大学



名取市関上を主な活動拠点とし、防災・減災に力を入れている課外活動団体「ボランティアチームTASKI」に所属し、町内会の企画や自身らが企画した活動を通して住民と関わり、コミュニティ支援を行っている。また、関上の軌跡や現状を伝える伝承活動や、山元町での活動にも精力的に取り組んでいる。

#### 常楽 瑛歩氏

神戸大学 (オンライン登壇)



阪神・淡路大震災をきっかけに生まれたボランティア団体である神戸大学学生震災救援隊へ2022年春1年生時に入団。現在は同団体の現地派遣セクションリーダーとして、主に東日本大震災の被災地、宮城県山元町の地域コミュニティ再生や被災者のソフト面の支援を目的に活動しながら、2024年からは能登半島地震被災地での災害ボランティアも行っている。

### ■進行

布田 剛 / 特定非営利活動法人地星社 代表理事



# 「広域避難における被災者支援の変化」

## 分科会3

15:25～16:20 (担当: 一般社団法人ふくしま連携復興センター)

全町村避難により広域避難を余儀なくされた大熊町を中心に、避難先(県内外)や避難指示解除後の中長期的支援の観点から、「コミュニティ」に注視し、自治体や団体、組織等による支援体制や事業を通じた様々な支援の在り方について、大熊町復興計画に沿って振り返り、支援の変化と今後の課題対応を考えます。

### ■登壇者



#### 佐藤 亜紀氏

HITOkumalab(ヒトクマラボ) 代表

2014年から2021年まで大熊町復興支援員コミュニティ支援担当として活動し、2019年4月の一部避難指示解除以降大熊町に居住。現在は大熊町にて地域のコーディネーター(つなぎ役・調整役)として、コミュニティ支援やイベント企画運営、伝統芸能保存継承、農業などに関わる。



#### 鈴木 秀和氏

大熊町役場 中通り連絡事務所 生活支援係長

震災後、2012年10月より新設された生活支援課にて、避難者支援の業務に従事。県内外の避難先における町民コミュニティ形成のため、復興支援員事業の導入を推進。



#### 松永 秀篤氏

・大熊町社会福祉協議会副会長  
・大熊町行政相談員/富岡地区防犯指導隊大熊分隊長

震災前から震災後にかけて大熊町議会議員を4期務める。大熊町帰還後、避難指示が解除された大川原地区に自宅を再建。農業に携わりながら、大熊町社会福祉協議会副会長、行政相談員等を兼任。町内で開催するイベント企画運営にも携わり、町を盛り上げている。

### ■進行

鈴木 啓人 / 一般社団法人ふくしま連携復興センター コーディネーター

# 「被災地の地域づくりのこれから」

## 全体会

16:25～17:10 (担当: 一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター)

被災地の地域づくりのこれからに向けて、分科会で話し合われたコミュニティ組織の「3県で共通した今後の課題」や「それを解決するための支援や取り組み」について考えます。

### ■登壇者

佐藤 亜紀氏 <HITOkumalab代表>

橋本 大樹氏 <一般社団法人東北まちラボ 代表理事>

船戸 義和氏 <特定非営利活動法人いわて連携復興センター コミュニティアドバイザー/  
国立大学法人岩手大学 客員准教授>



### ■進行

天野 和彦 / 一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター 共同代表

# 「シンポジウムで得た気づきを共有しよう」

## 交流会

17:30～18:30 ※交流会は任意参加です。会場参加(定員30名) オンライン(定員20名)

今回の全体会で話し合われたコミュニティ組織の「3県で共通した今後の課題」や「それを解決するための支援や取り組み」について、感想共有と参加者が被災地で今後取り組みたいことを意見交換します。

※終了後は名刺交換など自由交流

## 令和6年度3県合同シンポジウム FAX 申込用紙

### コミュニティ組織の支援と課題

#### ～3.11 の被災地の現状からこれからの未来を考える～

【必要事項をご記入の上、**022-797-6788** まで FAX にてご送信ください。】

お名前		
所属組織		
メールアドレス		
電話番号		
参加形態	<input type="checkbox"/> 会場参加（仙台市中小企業活性化センター・多目的ホール）	<input type="checkbox"/> オンライン
交流会への参加	<input type="checkbox"/> 参加	<input type="checkbox"/> 不参加
※交流会へ参加と回答された方のみご回答をお願いします。 交流会への参加形態を教えてください。	<input type="checkbox"/> 会場参加（中小企業活性化センター・多目的ホール）	<input type="checkbox"/> オンライン
※オンラインで参加と回答された方のみご回答ください オンラインでの参加人数について教えてください。	<input type="checkbox"/> 1名で参加	<input type="checkbox"/> 複数名で参加 ※後日、参加者確認のご連絡を致します。
当シンポジウムへのお申込みの理由を教えてください。		
当シンポジウムはどちらでお知りになりましたか。	<input type="checkbox"/> いわて連携復興センターホームページ <input type="checkbox"/> みやぎ連携復興センターホームページ <input type="checkbox"/> ふくしま連携復興センターホームページ <input type="checkbox"/> みちのく復興・地域デザインセンターホームページ <input type="checkbox"/> いわて連携復興センター告知メール <input type="checkbox"/> みやぎ連携復興センター告知メール <input type="checkbox"/> ふくしま連携復興センター告知メール <input type="checkbox"/> みちのく復興・地域デザインセンター告知メール <input type="checkbox"/> 関係者からの紹介 <input type="checkbox"/> その他 _____	